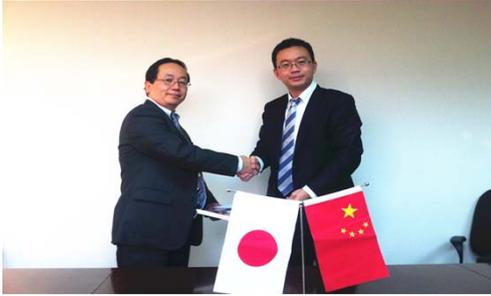


JICA中国事務所ニュース

- ★ 中国事務所ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/china/office/index.html>
- ★ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ★ サーチナJICAページ <http://news.searchina.ne.jp/topic/032.html>
- ★ JICA中国事務所ミニブログ <http://weibo.com/u/3248071500>

2013年12月号



目次

■ トピックス

- ◎ 第4回「東アジア市民社会フォーラム」の開催 ……2

■ ニュース

- ◎ 国際シンポジウム「東アジア地域の循環文化の構築と国際協力」 ……3
- ◎ 第1回「日中高齢化勉強会」の開催 ……3
- ◎ 大気中のオゾン・PM2.5の抑制に関するプロジェクトを開始
～大気環境分野におけるJICAプロジェクトの動き～ ……4
- ◎ 中国西部地区林業人材育成プロジェクト
～集体林権制度改革セミナーの開催～ ……4
- ◎ 「日中・中小企業協力における創新発展フォーラム」の開催 ……5
- ◎ 「日中地震災害復興及び防災シンポジウム」の開催 ……5
- ◎ 石川県との連携協力「江蘇省土壤汚染対策技術支援事業」 ……6
- ◎ 安徽中澳職業学院での「第4回日本文化祭」 ……6
- ◎ 持続可能な職業教育に関するセミナー ……6
- ◎ 北京日本人学校での国際協力講座 ……7
- ◎ 天皇誕生日祝賀レセプションに出展 ……7
- ◎ 河南省財政庁とのMOU締結 ……7

- CHINA COOL 「ダウンコートのリメイク」 ……7

独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京発展大厦400号室

郵便番号: 100004

電話: +86-10-6590-9250

FAX: +86-10-6590-9260

ニュースレターに関するお問い合わせは、こちらまで

E-mail : jicacn-pr@jica.go.jp

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

第4回「東アジア市民社会フォーラム」の開催



東アジア市民社会フォーラム



現場視察の様子（NPO自立支援センター ふるさとの会）



草の根技術協力事業の写真展

JICA中国事務所は、2004年からNGO-JICAジャパンデスクを設置し、情報提供等を通じて、中国で活動する本邦NGOの活動を支援するとともに、中国国内のNGOとの関係を構築・強化しながら、NGOと、草の根技術協力事業をはじめとするJICA事業との連携促進を図っています。

◆第4回「東アジア市民社会フォーラム」

2013年11月20～21日、東京で「東アジア市民社会フォーラム（第4回）」が開催されました。これはボランティア活動国際研修会（JIVRI・日本）、中国国際民間組織合作促進会（CANGO・中国）、コリア・ボランティア・フォーラム（KVF・韓国）の主催、JICAの共催で行われたもので、日中韓の三ヶ国から、NGO代表者や研究者等の約120名が参加し、「市民社会・ボランティアリズムの力量形成をどう図るか～NPO／NGOの力量形成と中間支援組織の役割」をテーマに情報・意見交換を行い、市民社会の質的発展に向けた力量形成と、三ヶ国の人材交流の機運醸成に取り組みました。

全体会議では、日中韓各国が、自国のボランティアリズムの力量形成に関する理念や実際の活動状況等について紹介したほか、JICAは、日中のNGO・地方自治体間の連携促進や市民社会の相互理解と発展に関する具体例として、中国において10年以上に亘って実施している草の根技術協力事業を紹介しました。また、問題提起と意見交換のセッションでは、NGOの代表者や学者が、各国のNPO／NGOや中間支援組織が市民社会の形成に果たす役割を分析し、NGOのキャパシティビルディングや人材育成の重要性を強調しました。このほか、フォーラム参加者は、生活困窮者を支援する「NPO自立支援センターふるさとの会」等、NPO/NGOの活動現場を訪問し、日本のNPO/NGOに対する理解を深めました。

2009年に日本側の発意でスタートした本フォーラムは、第2回（2011年）をソウル、第3回（2012年）を北京で開催し、今回から2周目のサイクルに入りました。現下の日中韓の政治関係を踏まえると、三ヶ国の市民社会の交流や相互理解・信頼関係の醸成は、東アジアの平和と協調に向けてますます大きな意義を持つと言えるでしょう。今後もフォーラムの開催を通じて、三ヶ国間の信頼関係を深めながら、市民社会の建設と発展を促進し、NGO間の実質的な協力を後押しすることが重要です。

◆草の根技術協力事業の写真展

「東アジア市民社会フォーラム」の開催に合わせて、11月20～29日、これまで中国国内で実施してきたJICAの草の根技術協力事業に関する写真展を開催しました。JICAは2000年以降、中国で179件の草の根技術協力事業を実施してきました。JICAは、これらの実施を通じて、日中のNGO、大学、地方自治体、公益法人の共同事業を支援し、高齢化社会への対応や、社会的弱者や障害者の支援、砂漠化防止、環境保護、保健衛生、農民の生活向上等の各分野において、技術者の育成や、政策提言、住民の生活水準向上等に向けて取り組んできました。日中共通の課題に取り組む等、各事業は、日中双方の実施団体にとって、意義ある取り組みとなっています。

（周迎）

■ 関連記事

http://www.cango.org/newweb/Shownews_page.asp?ArticleID=1719

■ 関連情報（CANGOのHP）

http://www.cango.org/newweb/Shownews_page.asp?ArticleID=1719

国際シンポジウム「東アジア地域の循環文化の構築と国際協力」



2013年12月1日、JICAは上智大学との共催で、上智大学100周年記念事業として「東アジア地域の循環文化の構築と国際協力」と題したシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、循環型経済・社会の実現を目指した取り組みについて、日中韓の三ヶ国の情報共有・経験交流を深め、東アジア地域における循環文化の構築とその国際連携の方向性を見出すことを目的としたものです。

中国からは、「都市廃棄物循環利用推進プロジェクト」の一環で実施した訪日研修（11月27日～12月7日）に参加した中国国家発展改革委員会、外交部、商務部、住宅建設部、科学技術部、環境保護部、清華大学等の研究機関や地方政府の関係者（合計32名）が参加しました。

シンポジウムでは、環境省の谷津龍太郎事務次官と中国国家発展改革委員会の馬栄巡視員等が基調報告を行った後、日中韓の研究者が「対中環境協力の検証」、「循環文化の構築に向けて」というテーマでパネルディスカッションを行い、各専門分野の立場から熱い議論を展開しました。

日中韓の三ヶ国はいずれも、「循環型社会」や「循環型経済」を重要な目標の一つとして位置づけた政策を推進しています。各国が直面している循環政策の現状や課題には、各国の歴史文化、自然条件、経済社会の発展段階の違いを背景に、共通点がある一方で顕著な相違点もあります。

今回のディスカッションを通じて、「環境という側面から見れば、三ヶ国は共同体を形成しているという現実を無視することはできず、共通する課題に対して互いに協力して解決していかなければならない」、「『循環』の考え方に基づいた廃棄物・資源循環政策について、東アジア地域における現状や課題を再確認の上、発展させ、域内における『循環』の考え方に基づく経済社会の構築に向けた相互協力を進めよう」という力強い提言がなされ、一同は今後の協力を誓い合いました。

時機を得たテーマであり、100名を越えた一般参加者からの質疑も豊富で、熱心且つ緊張感のあるシンポジウムとなりました。中国向けODA事業の規模が縮小傾向にある中、中国側の政策関係者が参加して、これまでの対中環境協力を検証し、今後の方向性としてパイの協力から地域間マルチの協力の重要性を提起できたことは大きな収穫だと考えています。

「都市廃棄物循環利用推進プロジェクト」の協力期間は残り約1年で満了となりますが、今回のシンポジウムの成果等を踏まえながらプロジェクトを実施し、中国における循環型経済社会の構築に貢献したいと考えています。

（大石千尋（「都市廃棄物循環利用推進プロジェクト」チーフアドバイザー））

第1回「日中高齢化勉強会」の開催



JICAは、2013年12月3日、「高齢者の栄養と健康」をテーマに、「第1回日中高齢化勉強会」を開催し、高齢化対策に関連する国際機関、日中の政府・研究機関、民間企業、NGO等から約60名が参加しました。

かつてJICAを通じて長期訪日研修に参加した、国家衛生・計画生育委員会の周美林処長を講師として招き、最近中国内外から注目が高い中国の「一人っ子政策の緩和」について、その背景と影響を紹介しました。また、（株）不二製油の卓興鋼課長と北京大学公共衛生学院の張雪梅教授は、日本と中国の高齢者の健康と栄養をめぐる状況について講演し、中国の農村部では健康知識の不徹底等による生活習慣病が急増している等、興味深い事例が紹介されました。

今回の出席者からのアンケート回答によると、特に介護保険制度、介護技術、認知症問題等への関心が高いことが分かりました。これらを参考にしつつ、今後もJICAは、ナレッジシェアとネットワーキングの場として、シリーズで「日中高齢化勉強会」を開催する予定です。

（鮑迪娜）

■ 関連記事

上智大学ホームページ

<http://sophiauniv100.jp/events/schedule/20131130.html>

■ 都市廃棄物循環利用推進プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/007/>

■ 関連記事

高齢化分野における日中協力

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201301/02.html>

#a01

大気中のオゾン・PM2.5の抑制に関するプロジェクトを開始

～大気環境分野におけるJICAプロジェクトの動き～



「窒素酸化物総量抑制プロジェクト」の活動の様子（工場での現場測定に向けた意見交換）

■ 大気中の窒素酸化物総量抑制プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/013/index.html>

■ 関連記事

大気環境の改善に向けて

http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201302_03/01.html

中国「大気汚染対策行動計画」とJICA事業の成果

http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201310_11/01.html

2013年11月29日、JICAと中国環境保護部は、「オゾン及び微小粒子状物質（PM2.5）抑制のための計画策定能力向上プロジェクト」のR/Dに署名しました。本プロジェクトでは、中国の環境保護部門の行政官や関連研究機関の研究者・技術者に対し、オゾン及びPM2.5を抑制するための計画策定に必要な人材育成を行う予定です。

中国政府は、急速な経済成長を背景として深刻化する大気汚染への対策に注力しており、2013年には「大気汚染防止10ヶ条」や「大気汚染対策行動計画」等を発表して、その方針を示しています。大気中のオゾン及びPM2.5については、2012年の中国「大気環境基準」の改正以降、8時間の平均濃度が評価対象となっており、これらの基準達成に向けた着実かつ効果的な汚染対策が求められているものの、抑制のための計画策定に必要な複合型汚染の診断や、汚染源の解析、汚染物質抑制等に関する技術面の課題に直面しています。これらの状況を踏まえて、JICAと環境保護部は本プロジェクトの実施を検討してきました。

このほか、大気環境分野において、JICAは、PM2.5の主要な原因物質の一つである窒素酸化物（NOx）の排出削減を目的とする「大気中の窒素酸化物総量抑制プロジェクト」を実施しています。12月8～14日、同プロジェクトの活動の一環で訪日研修を実施し、参加した中央・地方の環境保護部門の行政官やエンジニアは、講義や視察を通じて、日本のNOx総量規制に関する制度や実施状況について学びました。政府による制度設計、地方自治体による環境目標の設定と実施、企業の対応（大気汚染協定、モニタリング、脱硝技術等）等、滞在中に獲得した知識は、プロジェクトの目標達成に向けて役立てられます。

（高田千瑛）

中国西部地区林業人材育成プロジェクト

～集体林権制度改革セミナーの開催～

■ 中国西部地区林業人材育成プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/china/chinese/office/activities/program/project/10.html>

■ 関連記事

国有林場管理体制と森林資源管理セミナー

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201308/02.html#a03>

中国政府は、森林の適切な保全を図ることを目的に集体林権制度改革や国有林場改革を推進しています。集体林権制度改革とは、集団所有の林地の経営権と材木所有権を農民に委譲することで、林地経営に対する農民のインセンティブを高め、適切な森林経営を促進するというものです。中国政府は、2008年に「集体林権制度改革の全面的推進に関する意見」を公布して以降、1億枚の林権証（林地使用権と材木所有権）を交付する等、改革を推進しています。JICAと中国国家林業局は、これらの改革を推進するため、林業関係者向けの研修方式の整備を目的とした「西部地区林業人材育成プロジェクト」（2010年3月～2014年2月）を実施中です。

2013年11月20～21日、JICAと中国国家林業局は、四川省成都市において「集体林権制度改革セミナー」を開催しました。日本からは林野庁森林整備部小坂善太郎首席森林計画官が、林地や立木等の権利や売買ルール整備に関する日本の取り組みを紹介、中国からは国家林業局農村林業改革発展司や四川省、雲南省、安徽省、浙江省等の省政府の代表が各省の先駆的な取り組み事例を紹介しました。

中国では11月に開催された三中全会での議論を踏まえ、土地制度改革が一層推進されると見られています。特に林権の改革は土地制度改革の重要な要素であるため、参加者は熱心に耳を傾けていました。小坂首席森林計画官は、林権に関する規律の整理、特に権利移転ルールの明確化や森林の公益的機能の維持・増進を担保する仕組みの検討が重要であると話しました。

（林憲二）

「日中・中小企業協力における創新発展フォーラム」の開催



2013年11月10日、JICAと上海社会科学院は、上海において「日中・中小企業協力における創新発展フォーラム」を開催しました。後援の日本貿易振興機構（JETRO）上海事務所のほか、企業、大学・研究機関、弁護士事務所等から日中の関係者が90名以上出席しました。

JICAと上海社会科学院は、上海社会科学院にJICAを通じて長期訪日研修に参加した経験のある“帰国研修員”が在籍していることをきっかけに、双方が共通の関心を持つ領域における交流と協力を強化することを目的としたMOUを締結しました（2013年9月）。今回のフォーラムは、締結後初めての具体的な協力となりました。

■ 報道

上海社科報

<http://www.shekebao.com.cn/shekebao/2012skb/bwsd/userobject1ai66638.html>

■ 上海社会科学院HP

<http://www.sass.org.cn/>

フォーラムでは、日中の中小企業の協力可能性をめぐり、日中双方から20名以上の学者や企業の代表者、政府関係者が講演、意見交換を行ったほか、JICAの帰国研修員ネットワークから構成した日中の共同チームが、民間金融、不動産等をめぐる諸課題に直面しつつも、依然中小企業の活動が活発で大きなポテンシャルを有する浙江省温州市を対象に実施した調査研究の成果を発表しました。また討論では、日本の中小企業は技術に、中国は市場開拓力・販売力に優位性があり、両者をどう組み合わせるかが今後の課題として認識されました。

フォーラムの総括として、日中の中小企業の間には、技術・品質・人材・法律・知的財産権保護等の分野において異なる点が存在するものの、それぞれの優位性や人材、市場開拓等の面において補完性があることから、協力の余地は大きく、今後はそのための制度構築が重要であると語られました。参加者一同は、今後も継続的に、このネットワークを活用しながら双方がWIN-WINとなる関係構築に向けたメカニズムを探る必要があるとの認識で一致しました。

（李瑾）



「日中地震災害復興及び防災シンポジウム」の開催

2013年11月25日、四川大学 香港理工大学災害復興管理学院（成都市）において、日本科学技術振興機構（以下「JST」）と中国科学技術部が主催する「日中地震災害復興及び防災シンポジウム」が開催され、日中の行政官や技術者、研究者、NGO、企業等、地震防災分野の関係者約150名が参加しました。

JICAは、開発分野における「防災の主流化」、2005年の国連防災世界会議で採択された「兵庫行動枠組」の推進に向けた取り組みを進めており、中国では、四川大地震発生以降、救助技術や応急対応、耐震建築、被災者の心のケア、被災した森林の復旧の各分野における技術協力を行ってきました。科学技術によるイノベーションや研究活動を推進するJSTも、四川大地震発生以降、地震のメカニズム、超高層建築物の耐震性評価、地震インパクトの数値計算システムの開発等の地震防災分野における日中共同研究を支援しています。

今回のシンポジウムは、これまでのJICAやJSTによるプロジェクトや研究の成果を、実務者、研究者間で共有するとともに、社会的応用、今後の日中防災分野の協力の在り方を検討すること等を目的に実施されました。JICA、JSTの連携プロジェクト（地球規模課題対応国際科学技術協力（「SATREPS」））で防災分野のプロジェクトオフィサーを務める東京工業大学本蔵義守教授がチアアするディスカッションでは、日中双方の専門家が、当該分野における分野横断的な対応や、日中それぞれの優位性を活かした研究の展開必要性、また両国は世界有数の地震頻発国として経験・知見を共有し、共に地震防災に取り組むことが期待されていること等を強調しました。

（高島亜紗）



北川県地震遺跡の視察

■ 四川大地震からの復興

<http://www.jica.go.jp/china/office/activities/program/case04/index.html>

■ 関連記事

四川大地震から5年

<http://www.jica.go.jp/china/office/ot hers/newsletter/201305/01.html>

石川県との連携協力「江蘇省土壤汚染対策技術支援事業」



2013年11月19～26日、JICAと石川県が連携して実施する草の根技術協力事業「江蘇省土壤汚染対策技術支援事業」の一環で、石川県から派遣された専門家が、江蘇省での活動を行いました。

中国では近年、水・大気汚染が大きな社会問題となっており、JICAはこれまで水質汚濁や大気汚染の改善に向けた石川県と江蘇省の協力を後押ししてきました。今回は、相対的に対策が遅れている土壤汚染について、実態調査を行うために必要な行政官の育成と江蘇省環境保護庁版「土壤汚染調査マニュアル」の作成を支援することを目的にプロジェクトを実施しています。

■ 関連記事

【草の根】研修成果報告会－江蘇省土壤汚染対策技術支援－

<http://www.jica.go.jp/hokuriku/topics/2013/131008.html>

今回の活動では、日本側専門家が、江蘇省環境保護庁や環境科学研究院、環境観測センターを直接訪問して、石川県の土壤汚染対策の経験を共有しました。いかに健康被害から市民を守るか、汚染地における企業や工場の役割をどのように規定するか、広大な国土を有する中国においていかに環境基準を設定するか等、「土壤汚染調査マニュアル」作成に向けた活発な意見交換が行われました。（林憲二）

安徽中澳職業学院での「第4回日本文化祭」



浴衣の着付け体験

2013年11月25日、安徽中澳職業学院において「第4回日本文化祭」が開催されました。同学院には、JICAボランティアである杉島夏子隊員が日本語教師を務めています。この文化祭は、かつて同学院で活動したJICAボランティアが、一人でも多くの中国の学生に日本文化に興味を持ってもらいたいと考えて企画したもので、今では学生自身が主体となって開催しています。

ステージでは、杉島隊員が浴衣の着付け体験を行う等、日本の伝統文化が紹介されたほか、学生たちが日本のダンスやコスプレ、歌を披露しました。特に、日本のアニメや漫画のキャラクターに扮するコスプレショーは、立ち見客が出るほどの盛況でした。多くの中国の学生が日本文化に直接触れる機会であったことはもちろん、日本に関心のある中国人学生の多さを改めて感じる機会となりました。（河原畑希久）

持続可能な職業教育に関するセミナー



堀紘一会長の講演

中国では現在、急速に都市化が進んでおり、これに伴って熟練労働者不足の問題や職業教育の必要性が盛んに議論されています。

アジア開発銀行（以下「ADB」）と中国財政部は、2013年12月2～3日、北京において「産業構造高度化及び経済改革の為の持続可能な職業教育」に関するセミナーを開催しました。セミナーには、アジア各国の行政官のほか、JICAや世界銀行、ドイツ国際協力公社（GIZ）等の国際機関の関係者が参加し、各国の事例紹介や意見交換を行いました。

JICAが本セミナーの講師として招いたドリームインキュベータ社の堀紘一会長は「日本の職業訓練モデルとその中国への適用」をテーマに講演し、都市就労者不足の解消には政府だけでなく民間企業が職業訓練に投資する仕組みづくりが必要であると話し、日本の職業訓練校の事例等を紹介しました。これには、中国はもちろん他国の参加者からも多くの質問が寄せられ、幅広い関心がうかがえました。

ADB中国事務所は、ADBやその他の国や援助機関による開発経験を、中国国内で相対的に経済成長が遅れている内陸部や、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ等、その他開発途上国に共有するKnowledge Sharing（知識共有化）の取り組みを行っており、JICAもこれに協力しています。（河野久）

■ ドリームインキュベータ社HP

<http://www.dreamincubator.co.jp/>

北京日本人学校での国際協力講座



■ 関連記事

大連日本人学校での国際協力出前講座

http://www.jica.go.jp/china/office/ot_hers/newsletter/201212/02.html#a06

JICAは、2013年11月12日、北京日本人学校中学部1年生（約50人）を対象に、国際協力に関する講座を実施しました。これは、北京日本人学校が、中学1年生の総合学習の時間を利用して、将来のキャリア形成や生き方について考えるきっかけや参考として実施しているもので、JICAボランティア（青年海外協力隊員）が毎年講義を担当してきました。

今回は、湖北省で活動する理学療法士の佐藤志野隊員と、黒龍江省で日本語教師として活動する村井郁夫隊員の2名が、自身の進路・職業選択を振り返りながら、中国でボランティア活動をするに至った経緯と現在の活動について紹介しました。

生徒たちは二人の言葉を興味深く聞き、「日本と中国の最も大きな違いは何か」、「活動現場においてどのように周囲の人たちと打ち解けたのか」等、多くの質問を寄せました。

このほか、9月には、大連日本人学校の中学3年生に向けて、JICA職員が日中協力について講義をするなど、JICAは、日本人学校をはじめとする中国各地の学校等への関係者派遣や、事務所への訪問受け入れ等を通じて、国際理解教育に協力しています。

（可兒希代子）

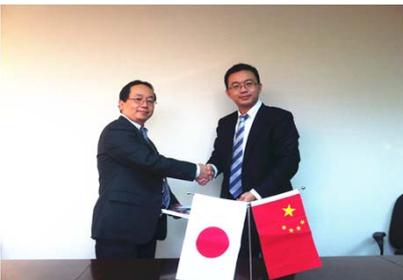
天皇誕生日祝賀レセプションに出展



2013年11月29日、在中国日本大使公邸において天皇誕生日祝賀レセプションが開催されました。日中等の関係者およそ1000名が招待され、中国側からは翟隽（テキ・セン）外交部副部長が主賓として出席しました。当日は、約60の日本企業・団体が会場内に展示ブースを出し、日本の食品や環境技術、文化・観光等の魅力をアピールしました。JICAもブースを出展し、写真やパンフレットを用いながら、30年以上にわたって実施してきた日中協力の軌跡を紹介しました。

（宗雪）

河南省财政厅とのMOU締結



2013年12月11日、JICAと河南省财政厅は、今後の協力に関する覚書（MOU）を締結しました。これまで円借款事業等の実施を通じて築かれた長年の協力関係を基礎に、今後は都市化、高齢化、食の安全等の日中共通の課題解決に向けて、交流の継続を確認したものです。まずは、都市化や金融等に関する分野での取り組みについて協議をして行く予定です。

（張陽）



CHINA COOL ダウンコートのリメイク

寒さの増す季節、体を温める最も有効な手段の一つとしてダウンコートが挙げられるのではないのでしょうか。流行に敏感な人は最新のデザインのものを購入したいと思う一方で、まだ着られる古いコートも持っているため、悩んでしまうものです。中国の仕立て屋では、古いダウンコートをリメイクするサービスを提供しており、とても繁盛しています。約一週間で、また200～400元程度の料金の、好みのデザインに作り直すことが出来ます。追加料金を払えば羽毛の追加が可能のため、ショートコートをロングコートにリメイクすることも出来ます。長い間クローゼットで眠っていた古着が、新たなデザインとして蘇るとは、何とも合理的です。コートにリメイクするほかにも、古いコートから取り出した羽毛を再利用して、枕や座布団を作る人もいます。「循環型経済」の一環としてとても良いサイクルの事例と言えるでしょう。ぜひ皆さんも試してみてください。（屈維）